

「パレスチナの惨状」

2016年01月19日

『週刊金曜日』にイスラエル生まれのダニー・ネフセタイ氏のブラックジョークが掲載されている。神様の前で米国大統領とエジプト大統領とイスラエル首相が一つだけ質問することが許された。「いつアメリカで犯罪がなくなりますか?」、神様は「50年かかります」と答えた。米国大統領は「私の任期内ではない」と泣き出す。「いつエジプトの農家は裕福になりますか?」、神様は「100年かかるね」と答えた。エジプト大統領も泣き出した。イスラエル首相が「中近東はいつ平和になるのですか」と聞くと、神様は「私の任期内ではない」と答え、泣き出した。ダニー氏は「笑うに笑えない話です。イスラエルに平和が訪れないのは、平和が来ると困る事情があるからです」、そして「1億円だった戦闘機が今は200億円。米国の武器の実験場であるイスラエルで認められた武器を世界中の軍隊が買う。イスラエルは戦争をしないと経済が回らないのです。米国のF35戦闘機の部品の4割は日本製です。だから日本は武器輸出三原則を投げ捨てた。日本もどこかで戦争がないと困る事情になってきました」と語っている。彼はイスラエル空軍レーダー一部隊に所属していたが、現在は、日本人女性と結婚し、埼玉県秩父市で木工家具の工房で「ちゃぶ台」を作っている。日本の現状を危惧し、「日本は平和でなくなろうとしています。駅で見る自衛隊募集のポスターは『日本の誇り』と宣伝していますが、日本の誇りは私が作っているちゃぶ台じゃなかったの?」と批判している。

2015年6月に、国連の独立調査委員会が公表した、14年のイスラエルによるガザ紛争報告書に、一人の父親の証言が載っている。「私は、叔父と娘の首なし死体を見つけました。… 姪のディナは妊娠9ヶ月で出産を控えて両親とわが家を訪問していましたが、彼女の腹部は無残に割れ、生まれなかった子どもは頭をつぶされた状態で彼女のわきに倒れていました。」同報告書は下記のように書かれていた。イスラエル空軍は、551人の子どもを含む2251人のパレスチナ人を殺害。避難所となっていた国連経営の学校や病院などの非軍事施設のあるガザ居住区に6,000発の無差別空爆を加えて3万5,000発の大砲を撃ち込み、使用された武器総量は、2008年から09年にかけてのガザ攻撃時の533%増に達した。報告書は、猛爆を受けている惨状を伝えている。

2015年の世界銀行報告書はガザの現状を「経済は崩壊寸前」という言葉で表現している。人口180万人で失業率は43%、若者の失業率は60%に達し、世界最悪である。イスラエルとエジプトによる厳しい封鎖を受けているからである。20歳のモハマド・カーセムさんは、仕事はなく、チャンスは閉ざされ、夢も持たず、未来が見えないと言い、下記のように苦しんでいる。「海辺へ行き、肺が飛び出すくらい叫びます。私の怒りを解消するものはほかにありません。怒りを発散させるところがないんです。」

EU諸国では、イスラエル入植地で生産された生産物の販売を中止したり、銀行は様々な取引を停止したり、学会においても、関係をボイコットする制裁措置を取っている。国連人権委員会も「組織的で広範囲かつ深刻な人権・自由の侵害」と非難する決議を賛成多数で可決した。唯一、米国は反対し、日本は棄権した。安倍首相はイスラエルのネタニヤフ首相と会談し「自由や民主主義といった価値観を共有するイスラエルと協力していく」と発言し、科学技術分野で協力強化の声明を出した。随行した180人の経済人たちは「ビジネスフォーラム」を持った。武器輸出、軍事転用技術のビジネスが交わされたのではないか。安倍首相は世界の世論に逆行し、戦争を生み出す政策をひた走っている。止めよう。